

令和3年6月11日

新規就業者（漁業就業実践研修生）と下五島地区漁業士会の意見交換会

現在、五島市では漁業就業実践研修生10名が頑張っているところです。今般、下五島地区漁業士会は、当該研修生の定着支援として、研修地域への融和促進、漁業士との意見交換や情報交換を図るため、令和3年6月10日に研修生との意見交換会を開催しました。会では事前に研修生が抱える課題等のアンケートを実施し、このアンケート結果などを基に、研修生7名、漁業士9名に行政（県水産経営課、五島振興局水産課、五島市水産課）を交えて意見交換を行いました。

まず、下五島地区漁業士会活動の説明、自己紹介の後、研修生から、現状の担い手確保の難しさとその対策について話題提供があり、漁業士から担い手確保に取り組んでいる県や市に相談しながら一緒になって取り組むと良いとの助言があり、県で行っている就業支援フェアや、主に若者向けの漁業の魅力伝えるユーチューブ動画、SNS、漁業士にも作成協力いただいている漁業者の暮らしぶり、経営事例などの情報発信の取組が紹介されました。また、研修生から、コロナ禍の影響で下がった魚価がいつまで続くのか不安との意見に対し、漁業士から、鮮度保持の処理や水産加工により付加価値を高める工夫が必要であることや、巣ごもり消費によるインターネット通販の促進の事例紹介がありました。このほか、コロナ禍は大変だが、これまでも魚価が下がった時代はあり、様々な漁労技術と知識を習得し、状況に合わせて漁業種類を変え、少しでも収入が増えるよう経営してきたので、研修中にしっかり習得して欲しいとの話がありました。最後に、研修事業の窓口にもなっている市から、研修事業を終え、独立の際には漁船や漁具などの整備の支援を県と連携をとってやっていきたいとの声がありました。

今後も研修生に対し、学習会などの漁業士会活動を案内し、実り多い実践研修になるよう積極的に支援していきます。



挨拶する荒木会長



左列 研修生